

鶏のコクシジウム症

病性鑑定課

Eimeria 属のコクシジウム感染により引き起こされる寄生虫病であり、若齢鶏に好発します。*E. tenella* および *E. necatrix* が高い病原性を示し、多数の鶏が血便を排泄して急死します。病鶏の盲腸あるいは小腸は拡大し、肥厚した粘膜に壊死と出血がみられ、組織学的検査により病変部に無数のさまざまな発育期のコクシジウム原虫が存在します。鶏舎の消毒にはオルソ剤およびスチーム(熱湯)が有効です。

2005年7月、当所管内の一農場で、約80羽の飼養鶏のほとんどが、鶏の食欲と飲水欲の低下、貧血および消瘦を示して、発病2週間後に5羽が死亡しました。病鶏の剖検により、肥厚した小腸粘膜に点状出血がみられ、同病変部の組織学的検査により無数の *E. necatrix* 原虫が観察され、本病と診断しました。なお、ウイルス学的検査により鳥インフルエンザおよびニューカッスル病は否定されました。オルソ剤を用いた鶏舎の消毒とともに、サルファ剤とビタミン剤を飼料に添加した後、多くの病鶏が回復しました。

飼養規模の大小に関わらず、飼養者には鶏舎の定期的な消毒、鶏痘、マレック病およびニューカッスル病のワクチン投与など基本的衛生管理の遵守が求められます。